

報道機関 各位

2024 年 10 月 28 日
愛知中小企業家同友会
会長 高瀬 喜照

第 50 回衆議院議員選挙の結果を受けて（会長談話）

衆議院選挙が投開票を終え、自民、公明の与党が過半数を割り込む結果となりました。この結果を表向きでとらえれば、「政治とカネ」の問題をはじめとした「積年の病弊」に自らけじめを付けずにやり過ごそうとする毅然さを欠く政治姿勢を、明確に民意が拒んだ表れでしょう。他方で世界に目を転じれば、与党の敗北ないし後退は大きな潮流となっています。物価高や賃金、雇用などをめぐる身近な諸課題に対し、既存政治が十分に対応できていないことがその背後にはあります。

政権選択選挙とされる衆議院選挙は、私たちの暮らしに関わる政策論争を与野党が正面から繰り広げることで、政権を争うのが本来のあるべき姿です。しかし、政治への信頼が揺らぐ中であって、選挙戦が国民の胸に響くものとなり得たのかには疑問を禁じ得ず、今回の選挙結果が、その細部に至るまで正しく民意を反映したものかどうかについては慎重かつ冷静な受け止めが求められます。党利党略を優先する振る舞いを正すことなく、今回の選挙結果を一連の「政治不信」が招いた結果と矮小化して解すれば、国民の不信は諦念に転化し、民主主義の根幹が揺さぶられかねません。国民から向けられる政治への視線は極めて厳しいものであることを肝に銘じていただきたいと思います。

世界的に大きな転換期に突入したなか、本来なされるべき「国のあり方、ありたい姿」に向けた具体的議論を国民は切実に求めています。それは、多様な価値観に丁寧に向き合い、国民一人ひとりの暮らしに真に寄り添う、血の通った政治への抜本的転換です。世界、日本、愛知と、すべての圏域で先行き懸念と閉塞感が日ごとに強まるなか、国民が真に豊かさを実感できる経済社会は、地域経済の根幹を成す中小企業それぞれが、自立した存在へと飛躍する健全な自助努力を基礎とし、それを強力に後押しする政策展開なしには成し得ません。各地域の特色を存分に活かし、個性ある豊かな国民経済実現のための「新たな」経済社会の姿を描き出し、その実現への道筋を指し示す国民的見地に立ったビジョンの策定が、現在直面している諸困難の克服には求められているといえます。

これらの前提は、健全な中小企業が活躍することのできる平和で民主的な経済社会と、すべての人が人間らしく豊かに暮らすことのできる環境です。今回の選挙を経て国民の負託を背負った議会には、国権の最高機関としての矜持のもと、国民の本源的願いに誠実に思いを致し、「熟議」を通じて国民一人ひとりの尊厳を守り、その基本的人権を実現する民主主義を实践する政治の確立と実行を切望するものです。

愛知中小企業家同友会とは

現在、愛知県下およそ 4,400 名の中小企業経営者が参加する異業種の経営者団体で、「経営体質の強化」「経営者の資質の向上」「経営環境の改善」をめざすという「3つの目的」に基づき活動しています。

- 1. 名 称 愛知中小企業家同友会
- 2. 会員数 4,385 名（2024 年 10 月 28 日現在）
- 3. 会 長 高瀬 喜照（たかせ よしてる） 株式会社高瀬金型 代表取締役社長
- 4. 事務局 名古屋市中区錦 3－6－29 サウスハウス 2 階
電話 052-971-2671 FAX 052-971-5406
専務理事 内輪 博之、事務局長 多田 直之
報道担当（事務局次長）八田 剛、政策担当（事務局次長）池内 秀樹